

トバモウイルス抵抗性甘長トウガラシ品種 「高育交1号」(旧系統名)の育成



写真 上:高育交1号
下:甘とう美人

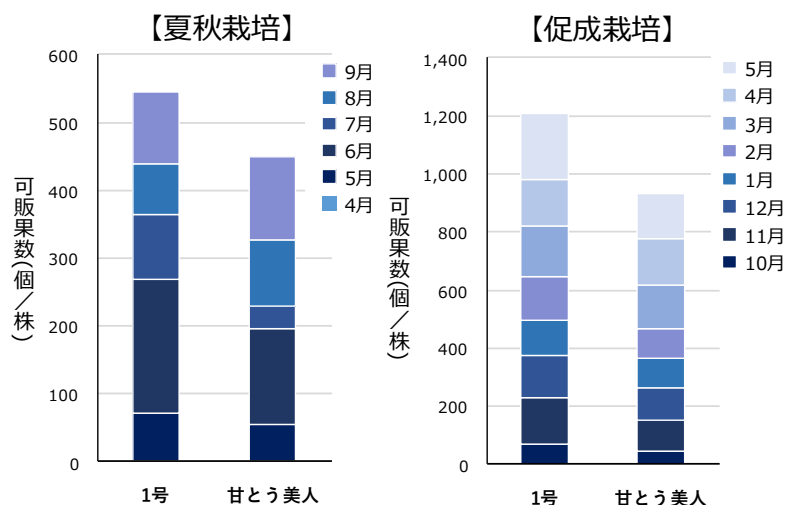


図 可販果数

調査期間：夏秋 2025年5月2日～9月30日
促成 2025年9月29日～2026年5月31日

表 果実特性(促成栽培)²⁾

品種	果長 (cm)	果幅 (cm)	1果重 (g)	尻腐れ果率 ^{y)} (%)
高育交1号	14.0	2.1	18.2	0.1
甘とう美人(対照)	14.0	2.2	19.6	3.2

z) 2026年2月2日にJA高知県出荷基準によるA品を20果調査

y) 2026年5月の発生率

本県の甘長トウガラシは、施設・雨よけ・露地で栽培され、[土佐あまとう]として周年出荷されています。しかし、慣行品種である「甘とう美人」はトバモウイルス抵抗性を持たず、病害発生が問題となっている産地もあります。

トバモウイルスに感染すると葉、果実へのモザイク症状、生育抑制などの被害を引き起こします。防除に有効な蒸気消毒には機材や燃料等のコストを要するため抵抗性品種の利用が望まれていました。

そこで当センターでは2015年から、トバモウイルス抵抗性を持つ品種の育成に取り組みました。その結果、慣行品種と同程度の収量および果実品質である「高

育交1号」(写真)を選抜し、2026年5月に「高育交トサシシ1号」という名称で品種登録を出願しました。

本品種は、トバモウイルス抵抗性遺伝子 L^3 を有しており、「甘とう美人」に比べて1果重はやや軽いものの、促成および夏秋栽培ともに可販果数が120%以上と多収です。また、甘長トウガラシの栽培で問題となる尻腐れ果の発生がほとんどみられません(表)。同ウイルスの発生ほ場でも本品種への感染は確認されていないことから、被害軽減への効果が期待されます。

(園芸育種担当 吉良智絵 088-863-4916)